

晃の園だより

平成24年2月発行



年が明けて早一月が経ちました。寒さの本番を迎えています。でも暦の上では…そう、もう立春です。そのことに気付いただけで、少し気持ちがほっこりするから不思議です。

昨年の事を思うと、やはり東日本での震災やそれに伴う影響の事が頭に浮かびます。色々な意味で、日本中の人たちに影響を与えた大きな出来事でした。静岡に住む私たちには、震災の記憶を薄れさせないこと。そして被災地の復興に可能なかたちで支援を続けることが求められています。

また大きな試練から得たもの。家族や日々の暮らしを改めて愛おしく思う気持ちを胸に、今日一日を、そして明日の一日を、繰り返し繰り返し大切に過ごしていく。良い意味での『その日暮らし』（解釈は色々ありますが、ここでは”日々を丁寧に生きること”という解釈とします）を重ねていくことも大切だと思います。

私たち自身の”今日一日を大切に思う気持ち”を、園で生活される方々の一日とも重ねて、今年も毎日を丁寧に暮らし、過ごしていきたいと思えます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

普段の生活の中で

特別なイベントでない普段の生活の風景です。こういった普段の生活の中での入居者様の笑顔こそがとても大事なものに思えます。



冬といえばみなさんは何を思い浮かべますか？ とある日の午後、入居者様の皆さんと掘りコタツでみかんを食べました。何とも言えない安心感に包まれ、みかんの味も格別でした。



窓の外を見ると、お隣のユニットの入居者様と職員が洗濯物を干している姿が目に入りました。とても素敵な雰囲気だったので、思わず写真を撮らせて頂きました。



頂戴した季節の草花。素早くセンス良く活かすことが出来ればよいのですが、なかなか難しそうです。こんな時はやっぱり身近な人生の先輩方に助言を求めるのが一番ですね。

BS放送がお楽しみいただけるようになりました

昨年末に実施した受信設備の更新工事により、ユニットの食堂など共用部のテレビでBS放送を視聴することが出来るようになりました。お部屋の中などのテレビにつきましては、分配器（あるいは分波器）をご用意していただくことで、視聴が可能となります。（詳しくは事務所までお問い合わせ下さい）

園だより休刊のお詫び

毎偶数月に発行している園だよりですが、前号（平成23年12月発行予定でした）は、編集者の体調不良により、勝手ながら休刊とさせていただきました。発行体制が未熟で状況に対応出来ず、決まった時期にお手元にお届けできなかったことをお詫び申し上げます。

（休刊となった号で、表紙に使う予定だった写真です ⇒）



ここに掲載した写真や記事は、晃の園ホームページの掲示板「旬のネタ」から抜粋したものです。掲示板「旬のネタ」には現場からのニュースが随時掲載されています。ここに掲載しきれなかったニュースや話題もたくさんありますので、ぜひご覧ください。



お問い合わせは
☎ 054-270-1210
FAX 054-270-1253



インターネット ホームページ
ホームページ <http://www.surugakai.net/hikari/>
Eメール hikarinosono@surugakai.net

■■ 晃の園の、ゆく年くる年 ■■



忘年会 いろいろな場所で、いろいろな楽しみ方で…

年の瀬には、園内のあちこちで忘年会行事が行われました。小さく大きく、食事を楽しみ、会話を楽しみ、催しを楽しむ。職員たちの準備の成果が、次々と花開いていました。



普段と違う特別なお食事とお飲み物はもちろんの事、会場やしつらえにも気を使い、雰囲気を盛り上げたのは言うまでもありません。様々なプレゼントや楽しみもご用意し、皆さんに楽しんでいただきました。



いろいろあった一年を振り返り、そして次の年を思う。「一年もあつという間だね」入居者様と職員も、口をそろえて笑って話していました。



新年 気持ちも新たに、新しい一年の船出

元旦。いつもと同じように太陽が昇り一日が始まります。でも新年を迎えた私たちの心の中には、旧年が無事に終わったことへの感謝の気持ちや、新年を祝う気持ちがあります。様々な飾り付けを行い、綺麗に盛り付けられたおせち料理を楽しむ。そして改まって新年の挨拶を交わし合う。新しい年を良い年にしたいという私たちの気持ちそのものが、正月をより正月らしくし、そして特別な日にしてくれます。



餅つき 杵つく音も高らかに 毎年恒例のお餅つき。つき手は職員が交代で行います。若手から中堅職員、そしてベテランさんまで。様々なつき手が見せる様々な杵さばきを見るのも、餅つきの楽しみのひとつとなっています。かえしはベテランの職員さんや入居者様にも手伝っていただきました。



つきたてのお餅はふんわり柔らか。皆さんの手で次々と大福やちぎり餅へと姿を変えていきました。お味の方はもちろん二重丸。皆さん楽しみ、味わっていただけた餅つきでした。



いつもの小上がりが、舞台へと変身

以前、日本舞踊を習っていたという入居者様が、踊りを披露してくださいました。演目は「奴さん」と「深川」です。お化粧をされ着物に身を包んだ入居者様が、曲に合わせて自慢の舞いを披露すると、途端に食堂横の小上がりは立派な舞台へと変わりました。



当日は職員も着物を着て、お茶を点てました。皆さんには、舞いを見た後の余韻と共に、お茶と甘菓子を楽しんでいただくことができました。ちょっとお洒落で気の利いた素敵な催しのお話でした。



より良い生活の為の総合的な取り組み

ハードとソフトをバランス良く

① 介護技術の向上

介護技術に関する研修が開催されました。みんなで休憩しているわけではありません。身体の向きを変えるときに、自分自身がどういった動作をしているか、身体をどう使っているのかを改めて確認しているところです。



「人の身体の自然な動き」を知ることが、介護技術の上でも大切な要因になっているということですね。技術と用具をうまく組み合わせることで、介助者も介助を受ける側も格段に「楽」ができます。今回はこんなことを皆で改めて確認することができました。

② 新しい設備の導入

- 清響2Fのユニットにある個浴全てにリフトが設置されました。
- 個浴でゆっくりお風呂に浸かりたい。
- 特殊浴槽は複数ユニットが共有しているので入浴の日程調整が必要。
- 湯船への出入りが困難な方には、2名以上の職員で対応。それでも危険な場面がある。



こんな現状が今回のリフト導入でかなり改善されます。もちろん、設備が整えばすぐ使えるというものではありません。機器の取扱い、利用する方に適した使用器具の選択、各種手順などなど、今後は様々な検討や練習を重ねていきます。



③ 既存設備の見直し

介護ベッドなど現在使用中の設備も、必要に応じて更新を実施しています。老朽化への対策だけでなく、これからの介護に必要なとされる機能を保持した設備を整えることも大きな目的です。

車椅子については、汎用的なものを園でも継続的に整備させていただきます。ただ入居者様個々の身体の状態に細かく合わせたものを使用することで、生活全般の大幅な改善も期待できるのが車椅子の特徴です。今後は必要に応じて最善の選択を御家族様と一緒に考えていきたいと思っております。